

題材名 「ふぞく小かくれたともだちマップ」をつくろう！

1. 題材の目標

- (1)身の回りにあるものをよく見て、隠れている「ともだち」を見付けるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
- (2)身の回りのものの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げ、いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもつ。
- (3)楽しく身の回りの物をよく見て、隠れている「ともだち」を見付ける学習活動に取り組み、形や色などに関わり楽しい生活を想像しようとする。

2. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身の回りにあるものをよく見て、隠れている「ともだち」を見付けるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。	① 木や植物の造形的な面白さ、表したいことなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 ② いろいろな形や色などを基に自分のイメージをもっている。	① 楽しく身の回りのものをよく見て、隠れている「ともだち」を見付ける学習活動に取り組み、形や色などに関わり楽しい生活を想像しようとしている。





3. 指導と評価の計画（4時間）

時	ねらい（◆）と主な学習活動（○）	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	主体
1	◆教室に隠れている「ともだち」を探すことについて、参考の写真を見たり実際に写真を撮ったりすることを通して、教室内のいろいろな「ともだち」を見つけて楽しむことができるようにする。	指導の改善に生かす評価「・」 総括資料とするための記録に残す評価「○」		
	○教師の写真を見て、教室の中には、見方を変えることで顔に見える形があることに気付き、隠れている「ともだち」がいることに興味をもつ。 ○教室の中で、隠れた「ともだち」をイメージしながら思い思いに写真を撮る。 ・iPad のカメラ機能を使うときの注意点を確認す	・○① 〈行動分析〉 〈記録分析〉		○・① 〈行動分析〉 〈記録分析〉

	<p>る。</p> <p>○友だち同士で、撮った写真を交流しながら、いろいろな形や色のおもしろさに気付く。</p> <p>○どんな「ともだち」が隠れていたか、全体で写真やその撮り方の工夫を紹介する。</p> <p>○活動の振り返りをする。</p>			
2	<p>◆運動場や草原などに隠れている「ともだち」を探すことについて、撮影した画像をお互いに見たり友だちと交流したりする活動を通して、形や色のおもしろさを感じ取り、工夫して活動を考えることができるようにする。</p> <p>○前時の写真をふり返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>○運動場や草原に隠れている「ともだち」を探す。</p> <p>○iPadを使って撮った「ともだち」の写真をお互いに見合ったり、友だちと交流したりしながら探したりする。</p> <p>○写真の中から、とっておきの1枚を選んで、ロイロノートに送る。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>		<p>○②</p> <p>〈行動分析〉</p> <p>〈記録分析〉</p> <p>〈発言分析〉</p>	
3 本 時	<p>◆自分が見付けた、とっておきの「ともだち」について、特徴を捉えて名前を付けたり友だちと交流したりする活動を通して、自分や友だちの作品の面白さや表現の工夫を感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。</p> <p>○自分のとっておきの「ともだち」の名前を考える。</p> <p>○見つけた「ともだち」の面白さや特徴を友だちに紹介したり、その作品について交流したりする。</p> <p>○友だちの作品を鑑賞することを通して、形や色などに気付きどのような特徴を捉えて、「ともだち」を発見したのかを伝え合う。</p> <p>○ロイロノートに、とっておきの「ともだち」を提出し、鑑賞する。</p> <p>○本時の振り返りを行う。</p>		<p>○①</p> <p>〈記録分析〉</p> <p>〈発言分析〉</p>	
4	<p>◆自分が見付けた「ともだち」について、とっておきの1枚の写真をロイロノートを使ってみんなで鑑賞しマップをつくることを通して、身の回りのものの造形的な面白さに気付き、自分の見方や感じ方をさらに広げることができるようにする。</p> <p>○前時で紹介できなかった子どもたちのとっておきの1枚の写真を鑑賞して、作品の面白さや気付いたことを発表しあう。</p> <p>○作品カードを、印刷したものを学校内の地図に貼り、「ふぞく小ともだちマップ」をつくる。</p>			<p>・○①</p> <p>〈記録分析〉</p> <p>〈発言分析〉</p>

5. 本時の指導（3／4）

本時のねらい	自分が見付けた、とっておきの「ともだち」について、特徴を捉えて名前を付けたり紹介したりする活動を通して、自分や友だちの作品の面白さや表現の工夫を感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	造形的な面白さ
評価規準	自分や友だちの作品の面白さや表現の工夫を感じ取り、自分の見方や感じ方を広げている。	造形的な
具体的な児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・反対にすると、違う顔に見えるよ。傾けても違って見えるね。 ・この部分も友だちに見えるよ。 ・自分は気付かなかったな。 ・友だちの考えを聞いて、自分も違うように見えたよ。 	

時間	児童の活動	指導〇及び留意点・ ◎評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
5分	1. 本時のめあてを確認する。 	〇自分が見付けた友だちに名前をつけ、その後、みんなに「とっておきのともだちを」を紹介することを伝える。 ・教師モデルを提示し、自分が撮った作品の色や形をよく見て特徴を捉えて名前をつけるように伝える。 ・色と形から浮かぶもの（イメージ）を具体的に考える。	教師モデルの写真 iPad
めあて「かくれたともだち」に名前をつけて、みんなにしょうかいしよう。			
7分	2. 自分が選んだ、とっておきの「ともだち」の名前を考える。 	〇選んだ「ともだち」をよく見て、感じ取ったことや特徴を基に名前を考える。すでに名前を考えている児童は作品に合った名前かをもう一度考えるように声を掛ける。 ・色や形を意識して名前を考えるようにする。 ・考えた名前はテキストに記録し、写真とつなげてロイロノートに提出する、	
13分	3. 見つけた「とっておきのともだち」の名前や特徴を友だちに紹介したり、ともだちの作品を鑑賞したりする。  	〇見つけた「ともだち」の面白さや特徴などについて、ペアで交流する。その後、自由に友だちと話したり、伝え合ったりする。 〇友だちに自分の作品が何に見えるか、どんな名前をつけたか尋ねてから、自分の作品の紹介をする。 ・どこで撮影したのか、どのように撮影したかなどの質問がある場合は、その都度質問し、答えるようにする。 ・クイズではないことを伝え、当たり・外れが目的ではなく、友だちと自分の考えを比べるように確認する。 〇ともだちの作品で心に残るようなものがある	

		<p>ば覚えておくことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方的に説明して終わることがないように、お互いの説明を聞くように声を掛ける。 <p>○交流しているときに、写真の角度を変えることで見方を変えている児童や、写真を撮った本人が気付かなかったようなことを教えるなどしている児童がいれば、その姿を撮影し、子どもたちに紹介する。</p> <p>◎身の回りのものの造形的な面白さ、表したいことなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	
12分	4. 友だちの作品を鑑賞する。	<p>○全員の作品を画面に映し、交流した友だちの作品の中で心に残ったものや、面白いと感じたものを紹介する。またどういう点がおもしろかったのか、自分の考えと違ったところも発表する。</p>	
8分	5. 本時の振り返りを行う。	<p>○友だちの作品を見て思ったことや、形や色について気付いたこと等についてワークシートに書いて振り返る。また、自分と違った見方をしていた友だちがいれば、そのことも振り返りに書くよう声を掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと作品の交流をしてどう思ったか、ということ意識して振り返りをするように声をかける。 <p>○全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、とっておきの1枚の写真を附属小の地図に貼り、「ふぞく小かくれたともだちマップ」をつくることを伝える。 ・マップづくりをすることは、単元を見通した活動として意識する必要があるなので、単元の最初に伝えるようにする。 	<p>附属小地図 ワークシート</p>

★1人1台端末の使用は効果的であったか

○ICTを活用することで、子どもたちの考えをひと目で把握することができ、全体指導に生かす点で学びの共有化ができていた。

○iPadへの書き込み機能（記入した後、文字が消える機能）を利用することで、学習者相互の交流を促すことができ有効だった。